

オルガノン要約 § 196～205

§ 196 正しいレメディなら外用薬としても使用できると考えるかもしれない。

§ 197 しかし、もし外用によって外的な症状が消え去ると本当に病が根絶したのかどうかを判断できなくなる危険がある。

§ 198 局所的な明確な症状がなくなると特徴的な症状像を描き出せなくなる。だから、局所的症状のみにレメディを適用することも避けなければならない。

§ 199 最も私たちを明確に導いてくれるのは外的な局所症状なのだから、それらがなくなるとレメディを選択するのが困難になる。

§ 200 局所症状が残っていたら治癒が終わっていないことを示す。残っていないなら、病気からの回復が達成されたことになる。よって局所症状は非常に重要である。

§ 201 VF は局所的症状を作ることによって内的病気を和らげる対応をとることがあるが、それは本質的治癒には至らないので、内的な病は徐々に悪化するし、ますます治癒しにくくなる。

§ 202 局所症状のみを根絶させれば表面的には治癒されたように見えるが、実は病気は内側へ向かい、病はより一層威力を増す。

§ 203 しかし一般的な治療は表面的で、すべて内側へ向かわせるものになってしまっている。こうした破壊的行為がすべての無数の慢性病を生み出して来た。

§ 204 病気や症状の原因は以下の三つ

- A) 不規則な生活
- B) 医原病
- C) 三つのマヤズム

表面的な症状が外的な治療で奪われると必ずマヤズムが発症する。医師がやるべきなのは単に外的症状を消し去ることではなく、マヤズムを治療しようとする事である。

§ 205 ホメオパスは根底にあるマヤズムだけを治療しようとする。単に最終産物の病巣を切除すると病気はより悪化し、危険な状態になることもある。